

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第6号 水稻

発行日 平成27年 8月25日(水稻以外は8月27日発行)  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

刈取り始めの目安となる日(出穂後、日平均気温の積算温度が950℃に到達する日)は平年より6日程度早まると予想されます。 ※8/23現在

収穫時期は日没が早まりますので、余裕のある作業計画で、適期に収穫しましょう。

- コンバインや乾燥調製施設の点検、整備は早めに行いましょう。
- 完全落水は出穂後30~35日後としましょう(品質の低下防止)
- 刈取適期の判定は黄化籾割合で80~90%を目安に、適期に収穫しましょう。
- 籾の乾燥は二段乾燥を心がけ、玄米水分15%以下に仕上げましょう。
- 次年度、品種の切り替えを予定している場合は、今秋からのコンタミ対策を徹底しましょう。

## 1 生育状況

県全体の出穂期は8月2日と平年に比べて5日早まりました(表1)。好天で経過したことから出穂・開花は良好であり、登熟も順調に進んでいます。

表1 水稻の地帯別出穂時期 各農業改良普及センター調べ

農業地帯	出穂時期(月/日)								
	本年			平年			平年差(日)		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	7/31	8/4	8/7	8/3	8/7	8/11	-3	-3	-4
北上川下流	7/29	8/1	8/5	8/4	8/7	8/11	-6	-6	-6
東部	7/30	8/2	8/5	8/5	8/8	8/12	-6	-6	-7
北部	7/31	8/3	8/8	8/5	8/8	8/11	-5	-5	-3
県全体	7/30	8/2	8/6	8/4	8/7	8/11	-5	-5	-5

注) 1 平年値は平成17年~26年の10か年平均値

2 始期、盛期、終期は各々地帯で概ね10%、50%、90%の水田で出穂した日

## 2 気象経過

出穂以降も、気温は平年より高く経過しています(図1)。

東北地方の1ヶ月予報(仙台管区气象台8月20日発表)では、天気は数日の周期で変わり、東北太平洋側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

東北太平洋側では、期間の前半を中心に湿った気流の影響を受けやすく、気温、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みです。

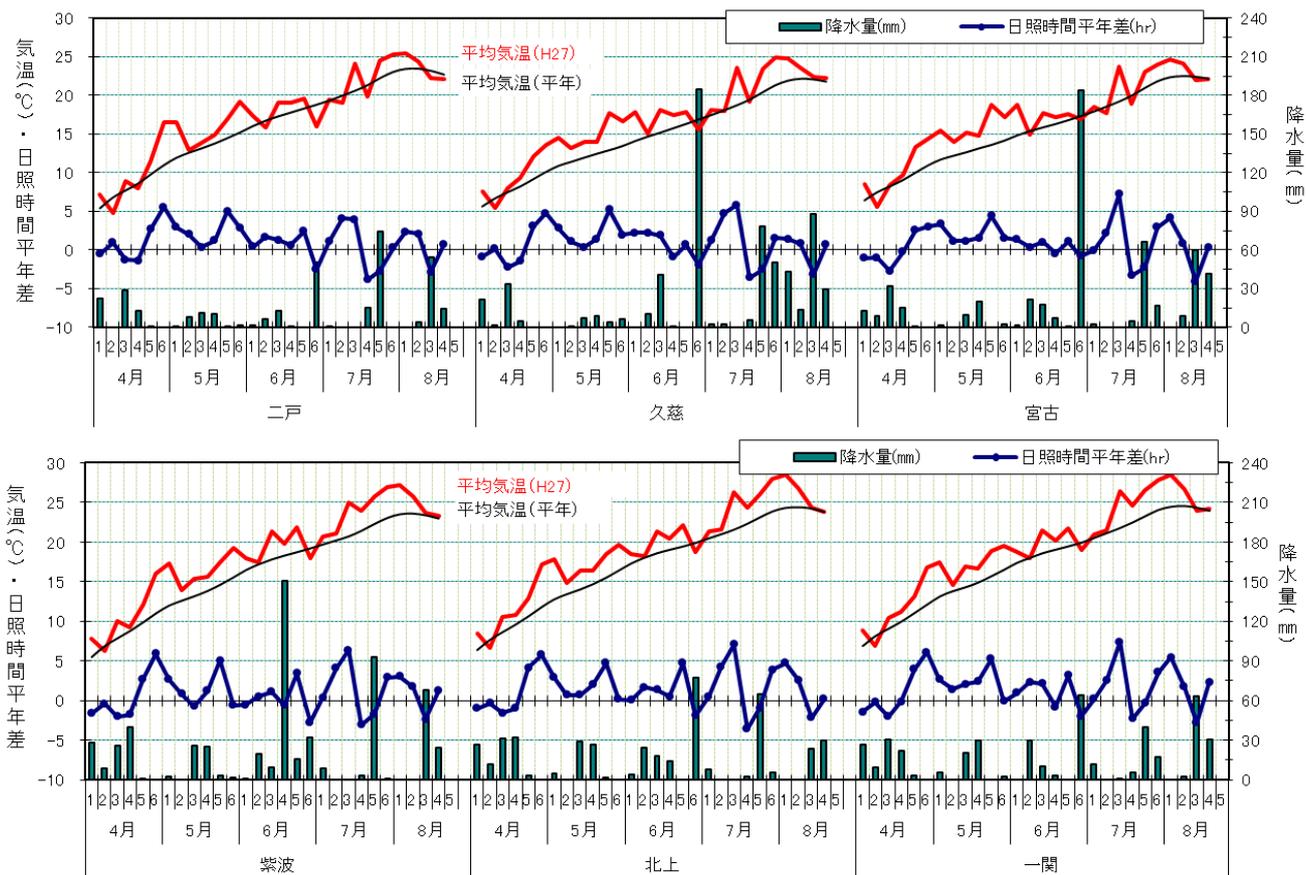


図1 半月別気象経過図（4月第1半月～8月第4半月）  
（上段；二戸・久慈・宮古 下段；紫波・北上・一関）

### 3 玄米品質を低下させない水管理

登熟期の高温は品質低下の原因となるので、適切な水管理を心掛けましょう。

登熟期間の水管理は食味、品質及び収量に大きく影響します。根の活力を維持するため間断かんがいをを行い、田面が湿っている程度の水分を保つような水管理を行ってください。

落水が早すぎると収量や品質の低下につながります。以下を目安に落水しましょう。

- ◆ 排水が悪く地下水位が高い水田・・・出穂30～35日頃
- ◆ 排水のよい水田・・・出穂35～40日頃

\*台風、大雨等で浸冠水の恐れがあるときは、水尻を開けて排水を促します。浸冠水した場合は、葉先を早く出すことが重要ですので、速やかな排水に努めます。

ただし、稲体は水分を失いやすい状態でもあるため、田面を急激に干さないようにしてください。

### 4 適期刈取りの励行

本年は出穂期が早まったことから、刈取り時期も早まることが予想されます。本年のように高温登熟年は、刈遅れによる白未熟粒の混入が多くなる恐れがありますので、例年にも増して適期刈取りを推進して高品質生産に努めましょう。

今年も新米の安全性を確認するための放射性物質調査を全県で実施します。カントリーエレベーター、ライスセンターをご利用の方は施設の稼働時期を確認のうえ刈取り計画をたてましょう。

#### (1) 刈取り適期の予測

刈取り適期は出穂期からの日平均気温の積算による方法で予測します。品種ごとに刈取り適期の目

安となる積算気温が定められています（表2）。

本年の各地域での刈取り始めの目安となる日（出穂後、日平均気温の積算温度が950℃に到達する日）は平年より6日程度早まると予測されます（表3、図2）。

コンバイン、乾燥調製施設の清掃、点検整備は早めに行い、刈取り準備を進めましょう。

表2 主要品種の積算気温による刈取り適期の目安

品種名	刈り取り適期の積算気温
ひとめぼれ	900～1,050℃
どんぴしゃり	950～1,050℃
あきたこまち	950～1,100℃
かけはし	950～1,050℃
いわてっこ	950～1,050℃
ササニシキ	1000～1,150℃
ヒメノモチ	950～1,050℃
もち美人	950～1,050℃

表3 各地域の出穂期と日平均積算気温950℃到達日の予測

農 業 地 域	出穂期						刈り始めの目安 出穂期～日平均気温積算温度950℃到達日(月/日)						使用 アメダス ポイント
	本年			平年			出穂始期～		出穂盛期～		出穂終期～		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
花 巻	7/29	8/1	8/5	8/4	8/7	8/11	9/7	9/15	9/11	9/19	9/16	9/25	花巻
北 上	7/30	8/2	8/10	8/5	8/9	8/12	9/8	9/16	9/12	9/22	9/23	9/26	北上
遠 野	7/31	8/4	8/8	8/3	8/6	8/9	9/12	9/16	9/18	9/21	9/24	9/25	遠野
西 和 賀	8/1	8/4	8/7	8/4	8/8	8/11	9/15	9/18	9/19	9/25	9/23	9/29	湯田
盛 岡	7/31	8/5	8/8	8/4	8/8	8/12	9/13	9/18	9/20	9/24	9/24	9/30	雫石
紫 波	7/29	8/1	8/7	8/2	8/5	8/10	9/8	9/14	9/12	9/18	9/21	9/26	紫波
八 幡 平	7/31	8/2	8/5	8/1	8/6	8/10	9/13	9/14	9/16	9/22	9/20	9/28	岩手松尾
奥 州	7/29	8/1	8/3	8/3	8/6	8/10	9/6	9/13	9/10	9/18	9/13	9/23	江刺
一 関	7/28	7/31	8/5	8/4	8/6	8/9	9/5	9/14	9/9	9/17	9/16	9/21	一関
大 船 渡	7/28	7/30	8/4	8/5	8/8	8/12	9/6	9/17	9/9	9/21	9/15	9/27	大船渡
釜 石	7/29	8/1	8/3	8/4	8/7	8/11	9/8	9/16	9/12	9/20	9/14	9/26	釜石
宮 古	7/30	8/4	8/8	8/4	8/8	8/12	9/11	9/18	9/18	9/23	9/23	9/29	山田
岩 泉	7/31	8/3	8/6	8/4	8/8	8/12	9/13	9/19	9/17	9/24	9/22	10/1	岩泉
久 慈	8/1	8/4	8/6	8/5	8/9	8/12	9/14	9/20	9/18	9/25	9/21	9/30	久慈
二 戸	7/31	8/3	8/7	8/3	8/6	8/10	9/12	9/16	9/16	9/20	9/22	9/26	二戸
軽 米	8/1	8/4	8/9	8/4	8/7	8/11	9/15	9/19	9/19	9/24	9/27	10/1	軽米
北上川上流	7/31	8/4	8/7	8/3	8/7	8/11	9/11	9/14	9/16	9/21	9/21	9/27	
北上川下流	7/29	8/1	8/5	8/4	8/7	8/11	9/8	9/15	9/13	9/20	9/19	9/24	
東 部	7/30	8/2	8/5	8/5	8/8	8/12	9/10	9/17	9/14	9/22	9/19	9/28	
北 部	7/31	8/3	8/8	8/5	8/8	8/11	9/13	9/18	9/17	9/23	9/23	9/29	
県 全 体	7/30	8/2	8/6	8/4	8/7	8/11	9/10	9/16	9/15	9/21	9/20	9/27	

\* 各地域の代表アメダス地点の日平均気温について、8月22日までは実測値、以降は平年値を使用して積算気温950℃到達日を予測した。

\* 出穂始期：10%出穂、出穂盛期：50%出穂、出穂終期：90%出穂した日

\* 平年は、H17～H26の10か年平均値。

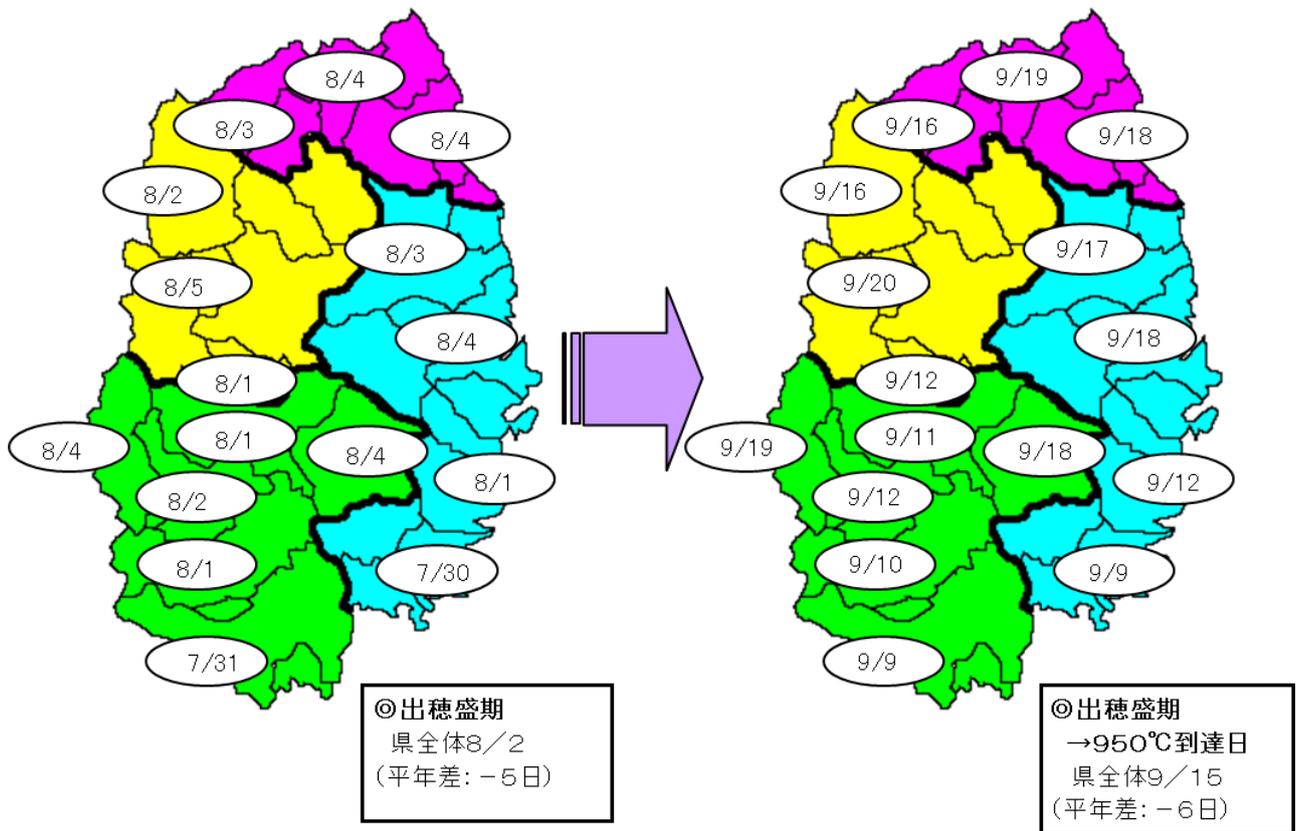


図2 各地域の出穂盛期から日平均積算気温950°C到達日(予測)

※ 各地域の代表アメダス地点の日平均気温の積算(8/22までは実測値、以降は平年値を使用)

## (2) 刈取り適期の判断

出穂からの登熟積算気温が950°Cに近づいたら、

- 籾の黄化割合を随時チェックし、
- 籾の黄化割合が80~90%となったら刈取りを行ってください。
- テスト籾すりを行い、最終的に刈取り適期を判定してください。

### ◆刈取り適期判断等の留意点

積算気温による目安は栽培法や日照時間によりズレが生じる場合があります。

最終的には、籾の黄化割合(80~90%が黄色で、穂基部の1割程度が緑色)を基本に刈取りの判断をしましょう。

1穂の籾8~9割が黄色になり、穂基部の籾1割程度に緑色が残っている頃が刈取り適期です。

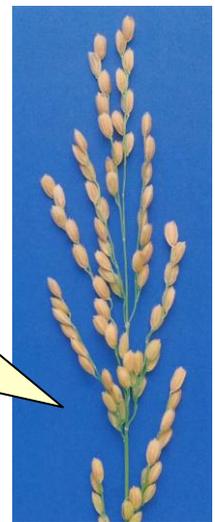


図3 籾の黄化割合と刈取適期判断の目安

## (3) 収穫作業(刈取り)

### 1) 籾水分の確認

コンバイン収穫では、作業開始前に水分計を用いて籾の水分状態が20~25%にあることを確認しましょう。また、コンバイン収穫した生籾は放置せず、速やかに乾燥調製施設へ搬入しましょう。

### 2) 水田内で出穂のばらつきが大きい場合

1枚の圃場内でも出穂のばらつきが見られます。水口などで登熟が大幅に遅れているような場所は、刈分けして品質低下を避けてください。

### 3) 倒伏した場合

台風や大雨等により倒伏した場合は刈分けを行い、土が付着した粃や青未熟粒等の混入を避けてください。

## 5 乾燥・調製の留意点 仕上げ水分は15.0%以下を徹底！！

### (1) 胴割れ粒の発生防止

火力乾燥においては、1時間あたりの水分減少率（毎時乾減率）を0.8%以下とします。これ以上乾燥速度を上げると胴割れ粒が発生しますので、急激な乾燥を避け、また過乾燥にならないよう注意が必要です。

4%以上の水分差がある粃は一緒に張り込みしないとともに、粃水分18%の時に一旦乾燥機を止めて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して粃水分の均質化を図ります（二段乾燥）。

自然乾燥においては、掛け替えを行うなどして乾燥促進に努め、乾燥期間は2週間以内としてください。

### (2) 粃すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

玄米水分15.0%以下の適正水分で粃すりを行います。（肌ずれ米の防止）

ゴムロールのすき間は、粃の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）が標準です。

脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

### (3) ライスグレーダー

出荷製品となる玄米は、LL（1.9mm）の篩い目使用を基本とし、整粒歩合80%以上となるよう努めましょう。

## 6 異品種混入の防止

産地から出荷する米穀は「表示銘柄以外の混入のない米」であることが必須です。

異品種の混入（コンタミ）が発生すると、品種名の表示ができなくなるばかりか、産地全体のイメージダウンとなります。

機械や施設の点検・清掃を徹底するほか、品種を切り替える際の異品種防止対策を徹底しましょう。

### (1) 機械や施設の点検・清掃の徹底

コンバイン、運搬機、乾燥機や粃摺機など収穫・乾燥・調製機械や施設内には、前年の粃等が残留している可能性がありますので、これらの機械や施設の点検・清掃を十分にを行い、異品種の混入を未然に防止しましょう。

### (2) 品種切り替え時の異品種混入防止対策

栽培品種を切り替える際（特に飼料用米から主食用米へ）は、図4の作業フローを参考に、異品種混入防止対策を徹底しましょう。

#### （参考文献）

- ・ 飼料用米の生産・給与技術マニュアル〈2012版〉 農業・食品産業技術総合研究機構，H25. 2
- ・ 飼料用米の多収性専用品種に取り組むに当たって-多収性専用品種の栽培マニュアル- 農林水産省，H25. 12
- ・ 平成26年度東北農業研究成果情報 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター  
「石灰窒素散布により、飼料用イネ等多収品種由来の漏生イネの発生を低減できる」

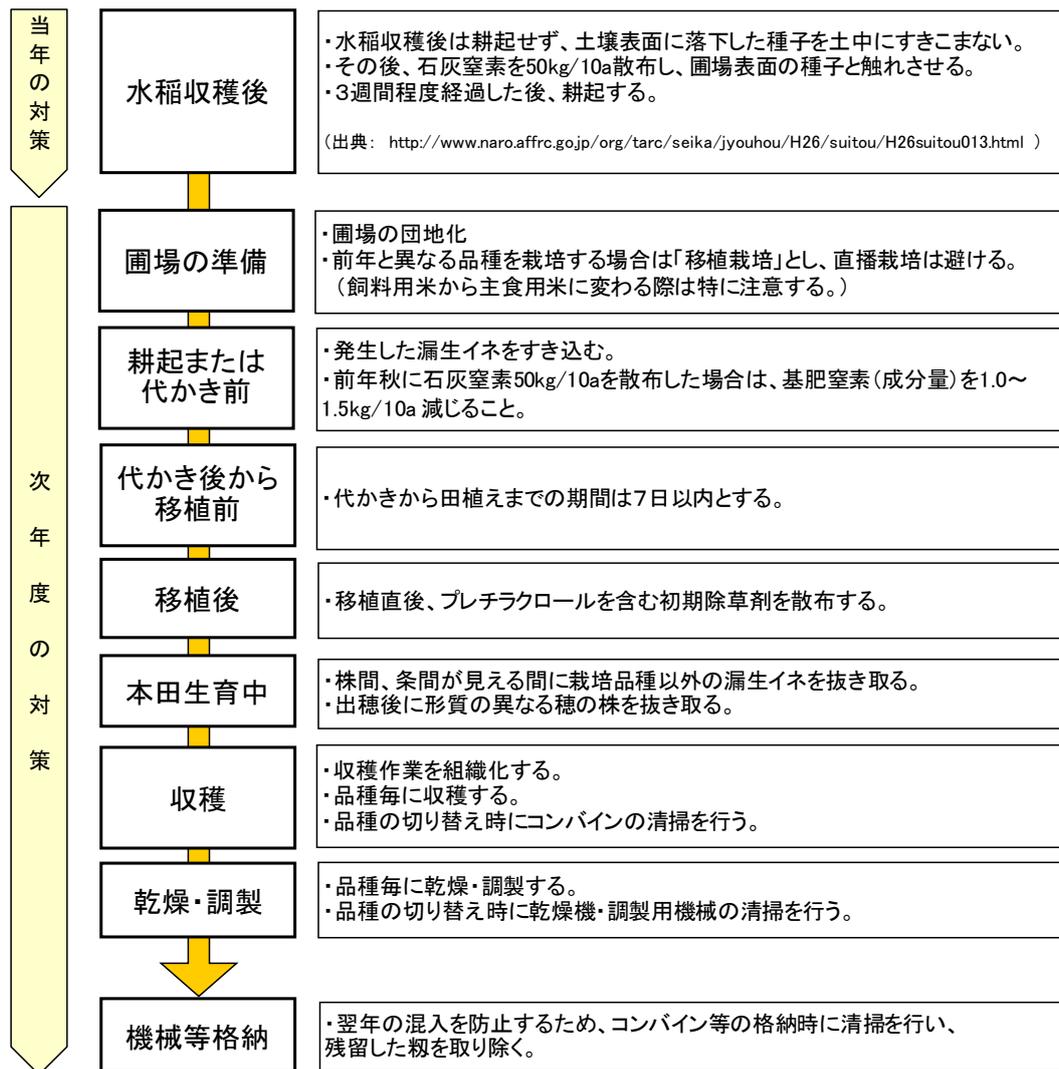


図4 異品種混入防止対策にかかる作業フロー

## 7 農作業安全

収穫時期は日没が早まり、例年農作業事故の発生が多くなります。余裕をもった作業計画を作成し、農作業安全に努めましょう。また、作業機に反射シールを貼るなどして交通事故を防止しましょう。

## 8 直播栽培(鉄コーティング種子による湛水表面播種栽培)の適期刈取り

直播栽培は、移植栽培に比べて出穂期や成熟期などの生育ステージが10日~2週間程度遅くなります。登熟を低下させない水管理を心掛け、適期に収穫しましょう。

倒伏した場合は刈分けを行い、土が付着した籾や青未熟粒等の混入を避けましょう。

次号は9月30日(水)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

### 熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

## 6月1日~8月31日は 農薬危害防止運動期間です

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。